

浜田市総合振興計画策定に係る審議会委員の意見書

1 総合振興計画の名称について

- （案 1 第 2 次浜田市総合振興計画）
- （案 2 浜田市第 2 次総合振興計画）
- ・浜田市まちづくり総合振興計画
- ・第 2 次市民と共に描く未来のまち計画
- ・浜田市振興計画 H28-H33～未来への経営指針～（シンプルが一番だと思う）

2 総合振興計画に掲げる将来像（キャッチフレーズ）について

- ・「選ばれる浜田市」
- ・「選ばれる“まち”」・・・「歴史」の要素も？
- ・「住みたい元気な町」
- ・「健康で安心して暮らせるまち」
- ・「青い海、緑の大地、人も輝き、住みたくなる町浜田」
（今までは文化のかおるまちとなっていたが、文化はあまり感じられない）
- ・「青い海、緑の大地に人が輝き、活気と思いやりがあふれるまち」
- ・「青い海 緑の大地 人が集い輝く町」
- ・「青い海・緑の山里 行き交う人が輝くまち」
- ・「潮風かおる 緑の大地 人を育む町」
- ・「山、川、海は恋人同志の連携のまち」
- ・「助け合い 分かち合う豊かな心 ～つながろう浜田市民」
- ・「住みたくなる浜田、住んで良かった浜田」
- ・「住みたい町 浜田」
- ・「次世代につなぐ楽しいまち」
- ・「『自然』『文化』『調和』の取れた地域づくり」
- ・「誰もが共に育ちあう『住みたくなるまち浜田』を目指して」
（老若男女、すべての市民が共に育ちあうという意味）
- ・「市民と共に 自立持続都市をめざして」
- ・「人と季節が輝く・住みたくなる浜田市」
- ・「一流の田舎、浜田に住みたい！」
- ・「伝統が息づく山陰の台所」
- ・市民から公募を募るのも一つ（市長や職員方の思いを込めたいと考える）
- ・現在のものを継続
（現在の将来像は、当時、旧浜田市としては「共創」の 2 文字を活かすよう提案したが、各自治区の意見を持ち寄り合意したもので、継続しても良いと考えるが、時代に即した事務局案を拝見して、議論すれば良い）

3 総合振興計画の構成について

基本構想の「4 土地利用構想」は、レベル（基本構想ですが）が異なるので、現行通り前期基本計画の方が落ち着くのでは？（構想から土地利用計画に落とし込むなど） ※無理に変更を希望するものではない。
なるべくシンプルに、誰が開いても分かりやすい構成
資料 3 の「新計画（案）」で良いと思うが、主要プロジェクト中の「人口減少対策」について、妻帯者向けの市営住宅の整備が望まれると考える。
- 浜田でこれまで一番不足しているのは観光面かと思う。少子高齢化の進んでいく中、外貨を稼げるのはやはり観光で、悲しいことに浜田にはあまりそんな所がなく、残念だが長い目で見て何かを作っていくかを考えるべき。 - 次の若い世代に残していける物を、私達が今からすぐにでも考える時期と思う。足元しか見えないカンテラ政策では、いつまでたっても浜田は良くならない。
資料 3 の構成（案）に賛同する。当時も「リーディングプラン」の取扱いについて賛否両論あったが、今回は自治区制度存続の方向性が示され、将来の財政運営に支障をきたさないことを前提として、前期基本計画で全市的な「主要プロジェクト」と「自治区別計画」の配慮は妙案と思う。
- 前期基本計画概要 (1) 計画の期間 → 6 年間で良い。 - 浜田市を取り巻く状況の変化 (2) 人口の減少と少子高齢化の進行 → 浜田市が抱える主要問題である人口減少と少子高齢化について詳しく位置づけてあって良いと思う。
3 つの基本政策が確実に実行できるようにローリング方式は大事だと思う。 - 人口流出には企業誘致は大事だと思う。 - 子育て、教育については、安心して働ける環境づくりが大事だと思う。 - 学業については塾に行かなくてもいいような授業をせめて小学校までは。 - 高齢者時代、子が親をみる時代ではと言われればいたし方ないが、地域で支えあい見守りあえばと思う。そのためにも老いも若きもが集える場所がほしい。
- 構成は事務局案で了解するが、「部門別計画」との整合性について確認をお願いする。 「自治区別計画」においては、浜田自治区の整理の仕方をきちんと説明できるように、また市民の合意が得られるようにお願いする。
資料の「まちづくりの展開」中、4「自治区別計画」明記…本題は主たるでも良い。
「部門別計画」については、行政の部門に沿って区分する方が、効率でわかりやすさ等の面において良いのではないかと思います。 - 具体的には、教育と文化を切り離す、建設、安全、環境についての見直し等。 - また、巻頭の部分で強く市としての指針を明記して頂きたい。
（案）の内容で良いと思う。
- 前期の評価を序章に記載 - ロードマップとの整合性を合わせるため、部門別計画を下記の通り変更 - I 産業・経済、II 教育・文化、III 健康・福祉（※子育てを内包）、 - IV 定住、V 環境（※建設・防災を内包）、※市民活動は各要素に内包

- ・5月の審議会で、序章にこれまでの施策評価を含めるべきとの意見が出たが同感する。過去の総括なくして新しい計画はあり得ないし、現に施策をPDCAのサイクルに従って進めていくと明言してある。達成できたことと、達成できなかったこと、後者の場合はその理由を振り返る必要がある。その場合、単に数値目標に達したか否かのチェックだけでは不十分で、全体のどの程度まで浸透しているか、や単に数字では表せない変化についての考察を求めたい。
 - ・第1次計画の「リーディングプラン」では、全体の施策・事業を全く別の切り口で分けていて、読む側は混乱し、大変わかりにくかったので削除すべきだと思う。優先事項であれば、「主要プロジェクト」に記述すれば良い。
 - ・「部門別計画」において、現在6つに分けられている案に対する改善策は、5月の委員会で私が発言した通り。要点は、「Ⅲ 環境」の中に自然環境と社会環境(生活環境)をまとめて構成すれば、この中で景観（自然の景観、町の景観）を総合的に論じることができ、また「安全」とは何かを横断的に述べることができる。「Ⅴ 建設・安全」は削除。「Ⅳ市民活動」と「定住」は切り離して、別々の項目として独立させる。
 - ・100人委員会のアンケート結果で、「紋切り型的美辞麗句や、コンサル任せの金太郎あめの戦略からの脱却が必要」（p6、【独自性】）、「手づくりの計画を期待」「中学生も読んでわかる冊子」（同、【冊子の設計・デザイン】）、「我々の貴重な意見がどのように反映されるのか、期待する」（同、【フィードバック】）などの意見に注目し、同感する。多少、いびつな（ぎこちない）構成でも良いので、メリハリをつけて、具体的な力点を明らかにした文章を書いていただきたい。
-
- ・「Ⅰ健康・生きがい」、「Ⅱ教育・文化・学習」、「Ⅲ環境・安全」、「Ⅳ産業・経済・交流都市」、「Ⅴ建設」、「Ⅵ異世代交流・定住」
 ※内容詳細は別紙のとおり
 - ・教育の部門を具体的に記載してほしい。
 - ・自治区別まちづくり計画は必要
 - ・自治区別制度の取り組みは、基本構成の上位に位置すべき。
 - ・「これまで（過去）」と「今（現在）」に触れ、「これから（方向性）」を語るシンプルな話をまず示してほしい。

4 総合振興計画の進捗管理方法について

(※委員ごとの意見)

・ 外部評価委員の配置など
・ 委員が分野ごとにグループとなり時間をかけて丁寧にみていく。
・ 評価による方法（年度ごと）により、整理することが望ましい方法と考える。
・ テーマが多いので、全員で協議していたのではとても時間が無駄なような気がする。いくつかのグループを作り、テーマについて話し合った方が意見も出やすく、内容的にも充実してくると思う。
・ K P I を設定し、P D C A サイクルにより中間管理を行う。単年度チェックの他、進捗を四半期（もしくは半期）で管理する事も必要と考える。
・ 執行部で進捗度、内部評価を集約し、外部組織で妥当性を協議し、各種媒体を通して公表される方が良いと思う。外部組織の構成は、現行の審議会委員代表と、市民委員会の代表による小規模（10～15 人程度）が適当と思う。
・ 共通意識をもち、現実感のある内容を明確に定義することと、達成状況や方法の検証を行う。
・ 目標値等分野別の計画との整合性も図られていることを考え、計画の進捗管理についての具体的なスケジュールや担当部の明記をお願いする。
・ 年度別 2～3 年に評価及び検証を確認
・ P D C A で着実に実行する。 ・ 年次の課題と成果を確実にする。 ・ 課題は翌年の実行計画に入れ込み対策する。 ・ 自治区別の計画において、実施から進捗管理まで市民と協働して行う機会をもつ（地域協議会をもっと活用する） ・ 毎年、各課において進捗・検証を行い、広報誌等で市民に対し公表する。
・ 6 年間のうち、3 年に一度は振り返り、見直しを行いたい。
・ P D C A で毎月進捗会議を行い、公表すればよいと思う。
・ 浜田市（自治体）の外から進捗を確認する組織をつくり、毎月進捗を確認し、継続した改善に努める。 ・ 時代の変化が激しいため、目標値は適宜見直しをする。
・ 計画の進捗状況を内部だけで管理するのではなく、立案過程と同様に外部（市民）に開示して評価を求めることは、行政にとっても市民にとっても、非常に重要だと思う。そのような仕組みを是非、保証していただきたい。

5 目標・指標値について

(※委員ごとの意見)

・数値として把握可能（既に市でデータを持っているもの）な指標の活用 ・これまでカウントしたことのない数値の活用 ・独自の指標の作成 「住みやすさ指標」、「子育て環境指標」、「教育環境指標」、「遊びやすさ指標」、「食の豊かさ指標」等々、浜田市の強みが強化される（今後強化したい）指標
・目標がただ目標とならないよう、無理に大きくしないで、確実にクリアを重ねられるような持ち方を。
・年度ごとの目標に対し、次のような項目により評価をする事で、その年度における報告書を作成することは出来ないだろうか。 1 年度目標、2 実施状況、3 結果と課題
・少子化時代を迎え、今後は形のあるテーマに取り組むべきで、数社の商品が少々売れても浜田そのものはほとんど活性化したとは感じられないと思う。これからは仕入れて売る商品では大型店に負けるので、作って売る商法でないとだめで、来て買ってもらう工夫が一番利益率も良く雇用にも繋がると思う。 ・魚も獲って売るだけでなく、加工する工夫が求められる。浜田は水産と温泉を伸ばさないで。
・人口の将来（目標）数値の設定が一番重要と考える。この場合、単なる出生率と人口移動のみで考えず、自助努力（企業誘致や産業振興）を加味した目標設定が必要と考える。（他は観光入込客数や企業誘致件数）
・部門別の代表的な項目について、現状と目標・指標値の設定は必要と思う。 ・人口推計の基準年は直近値を使用し、現状で推移した場合の人口推計と、浜田市独自の取り組みによる効果が比較できる推計があれば最適と思う。
・シミュレーション通りに進んで行くと考えると危機感を覚える。 （実際に人口減少を防いだ市や町の例を参考に対策を考える）
・人口・産業・観光について、U・Iターンも大事な施策、いかにその場にとどまるか、達成できる目標、指標を定めることが大事だと思う。観光の目玉、神楽をもっと産業と融合すればいいと思う。
・各分野別の計画との整合性を図り、担当部によるPDCAサイクルによる適切な目標・指標値を掲げていただきたい。市民が疑問に思う指標値が掲げてあるものがある。
・評価と検証と共に見直し
・年次の数値目標を明確にして取り組む。 ・「数値目標」も「随時変更」を可能なものとし、修正した目標値を市民に報告する。 ・市の計画をまちづくり計画に取り入れ、行政と市民が一体となって実行できる計画とする。 ・学校や公共施設の耐震化率を掲げる。
・数値目標のみでなく、それぞれの施策の質の向上を目指すものでありたい。
・大胆な政策をしない限り、シミュレーション①になる可能性は極めて高い。
・数値目標について掲げたのなら、計画や進捗状況に数字を随所に入れてみてはどうか。小数点など使わず、イメージしやすい表記方法が望ましいと感じる。

- ・ 10 年後の目標として下記を設定。
 - 人口を 6 万人台に回復させる。
 - 社会増減をプラスにする。

- ・ 第 1 次計画書の資料 6「代表的な目標値一覧」では、いずれも絶対値のみが挙げられているため、これを見ただけでは浜田市の充実度がわからない。
- ・ 例えば、健康づくりの推進の項で、「がん年齢調整死亡率」があるが、数字だけでは浜田の数字は国全体、県全体から見て、どのくらい良いのか悪いのか全くわからない。同様に、子どものための「延長保育の実施施設数」は、全部で幾つの施設があって、そのうちこれだけの施設が実施しているというのは何%なのか、100%を目指すのが望ましいのか、そこまで必要ないのか、判断もできない。
- ・ スポーツ振興のための〇〇教室の開催回数や、石中央文化ホールの入館者数など、これらの回数・人数が本当に事業の目的達成度を測る指標となるのか大いに疑問。
- ・ 男女の平均寿命の「目標値」の設定が、真に意味あることなのか考えさせられる。
- ・ 一方で、Ⅱ 教育・文化部門では、子どもたちの学力の増進に関する項目がすっぽり抜け落ちている。
- ・ その他、書き切れないが、疑問に思う「指数」が多くある。これほど多くの「数値目標」を本当に掲げなければならないのかを再検討すべきだと思う。意味のない数値を挙げることは誤解につながり、また数値では評価できないものも多くあり、どのような指標で測るべきかをもっと時間をかけて編み出す必要があると思う。

6 施策・事業について

(※委員ごとの意見)

・浜田市×〇〇（□□町、教育機関、職場、主婦、働くシニア・・・等） 個別具体的な地域主体との話し合い（フィーチャーセッション）を仕掛けて施策策定・運用を考え、共有
・浜田市に限らず、市民を巻き込む施策・事業をやっても、自分の事として参加しよう、力を出し合おう、という人が少なくなっている。個人の自由で、人の話はどうでもいい、自分の思う通りに生きればいいと極端に思いすぎている人が多い。（大人も子供も、子供は特に人の話を聞こうとしない） ・教育、子育てから考えなければ、地域を思い、人と助け合い、周囲の人々を大切にしようと思う人は少なくなると心配している。子供を叱る大人も少なく、子供の顔色を伺いながらの生活では光が見えない。 ・具体的には提案が難しいが、子育て、教育の取り組みも重きをおいてほしい。
・（１）新規事業については、目指すことの必要性を十分に検討することが必要である。 維持管理に関すること、年間の利用計画に関すること ・（２）特に将来性を見極めることが絶対条件として必要であること ・（３）既存施設の有効利用と整備 ① 市内多くの既存施設で、整備が急がれるものが多々ある。 例えば、陸上競技場、野球場など、早急な対応が必要となっており、それぞれの連盟などと協議が急がれる。 ② 第三セクター方式により運用されている「道の駅」や「お魚センター」など運営上問題が無いのか。 これらのことは、一例に過ぎないことかもしれないが、新規事業よりも優先して対処することが必要であると考える。
・浜田市には温泉も数か所あるが、何れも経営形態が古く、建物も若い人達が行ってみたい所が少なく、足湯の質も悪く、何を考えているのか、おいしい料理を食べられる所も少なく、定番料理で何度も行ってみたいとは思えない。もう少し高級感を味わえとか、山菜料理にこだわった料理等を食べさせるとかの工夫が必要。 ・浜田市で何を一番、二番に優先順位を付けてやるのか。あまり欲張らず確実に成果を出せるか考え、キャッチフレーズの如く、そんな市になるよう頑張って考えてみよう。 ・観光も点ではなく線になるように工夫しよう。
・施策や事業については、市長の公約と政策判断に委ねていますが、ロードマップに掲げた事業と市民の声を反映した施策の整合性が必要と思う。 ・このたびは市民委員会から様々な発案や要望等も出されており、これらを配慮した当局（案）を提示して議論すれば良いと思う。
・重点施策として、ひとり親ＵＩターン政策の取り組みに対し、生まれ育った浜田が「元氣な浜田」になるために、市民にできる協力を話し合っ意見を出し合い、定住促進につながればと考える。若い人たちだけのＵターンでなく、若い時やむなく都会に住まれ、定年を迎える人たちのＵターンは考えられないか。今でも故郷にご先祖の墓があり、お盆には墓掃除に帰られ、又シルバー人材センターに頼む話をよく聞く。

・雇用の場の創出、企業誘致に力を入れる。これから働く世代に働きたい企業・職種のアンケート実施 ・瀬戸ヶ島埋立地の活用、海とプールの融合したレジャー施設 ・列車とバスの利便性の向上。 駅とバス停…位置、時刻 ・駅から二次アクセスの整備、観光客、交流人口の拡大 ・子育て世代への支援、駅の活用（保育園、人、子どもの集まる場） ・話題性のある大きな大会（野球、陸上競技、サッカー等）が開催できる競技場の整備。集客、おもてなし、観光素材 P R
・活力ある地域のコミュニティの形成が今一番必要だと思う。 ・まちづくり推進委員会といってもまだまだ名ばかりの所、できてない所もあり、専門のコーディネーターを投入してほしい。 ・公民館がコミセンになり、誰もが利用できる場所になれば地域の活性化にもつながると思う。 ・地域でやる気のあるリーダーを育成して行政とのつなぎ役になってもらう。 ・自分の暮らしている町、地域は自分たちで守るという意識が大事。
・人を呼び込む施策（まずは、浜田を知ってもらう） 観光、イベント…参加型 ・広浜今福線を整備し、ロードレース（自転車、マラソン等）散策出来るようにする。（自然が満喫できる） ・保育料の軽減は第2子からでもいいのでは…、出産祝い金も考慮 ◎高梁市では4人目の出産祝金100万円 ・美しい環境を守るため、田を保持する必要があるが、耕作放棄地が目立つ。田舎ツーリズムの人々が来た時に印象を悪くする。
・施策・事業については、各担当部が再度確認したものを掲げて頂きたい。 ・計画策定には、庁内ワーキンググループの作業が一番大切だと考えるが、計画書には詳しく掲載されていない。策定経過の欄でも全く記載がなく残念。各課各係の担当者が横断的に連携し協議するこの作業経過が重要なポイントだと考える。 ・市民との協働体制をとれる事業などについては、明記して頂きたい。
・山、農地、海を活かした産業の振興 1) 木材の利活用等 … 計画～実現 2) 産業の振興 … 自治区ごとの特産品づくり等 3) 海 … 瀬戸ヶ島を活かした産業。隠岐、対馬等へ結ぶ観光船及び釣船の運行
・部門別計画の分野の分類の仕方について →今後、機構改革などがあった場合の対応は、どのようにすればよいのか。 例えば、「子ども」に関しては、一本化して切れ目のない支援が必要と考えており、将来「福祉」「教育・文化」にまたがる0歳～18歳の支援を『子ども課』とし、連続性のある中での無駄のない子育て支援を行うとよいと考える。 だが、もしそのような流れになった場合は、この計画においてはどのように対応するのか。

- ・子育て世代や若者、子どもの様な、今後の浜田を支えていく次世代への支援を行い、希望を持てるようにする。
○手当、○減免、○教育 ほか
- ・環境は良いが経済的に住みにくい。 物価→高い 賃金→低い
◎人口流出の減少、出生率のUPに少しは繋がるかも。

【健康福祉】

- ・誰もが安心して医療を受けられるまちづくり
- ・子どもを安心して産み育てられる環境づくり
- ・高齢者・障害者にやさしいまちづくり

【教育文化】

- ・生涯学習の推進と地域づくりを担う人材育成。
- ・地域文化の伝承。
- ・放課後児童クラブ設置事業の拡充。小学校の統廃合も進む中、平成 26 年度から対象児童が拡充されたこともあり、施設の拡充が求められている。また低学年、高学年を分けての指導や個別指導が求められる場面も増え、指導員の増員が必要となっている。

【環境】

- ・地域の特性を活かした景観環境の維持
- ・海岸への漂着物の安全確認
- ・有害鳥獣被害対策
- ・危険空き家対策特措法が施行されたことを機に、危険廃屋の放置を解決する事業化が、生活環境の安全・景観保全上からも必要。
- ・環境美化保全のため道路草刈に 1m10 円、河川草刈に 1 m² 15 円という助成を行っているが、海岸の漂着物清掃活動に拡充すべきではないか。

【産業経済】

- ・地域の作物を生かした地域振興
- ・企業誘致や新産業を起こし、雇用の場を拡充。
- ・都会地にアンテナショップを作り、浜田の特産品販売・観光客の集客
- ・企業・店舗の誘致と地元企業の拡大支援遊休施設（閉校した学校等）を活用して誘致。地元企業の商品の販売、消費、地産地消、労働の増加を図るため。
- ・魚がとれない現状に、予算投入は疑問である。ブランド化できない雑魚の掘り起こし。
- ・海や観光に特化した事業はもっと近隣の都市市民の考え方を分析すべきであり、市長が自己評価しても人は来ない。

（広島には海もあり新鮮な魚介類も獲れ、色んな観光地もある。その地域の文化や歴史はその地域にしかないが、そこに行きたいかは、また違った複雑な視点（わくわくドキドキ感等）となる。）

- ・中国電力三隅火力発電所から発生する石炭灰は、現在軽量盛土材やコンクリートで固めて宍道湖の浄化に利用されているが、大学との共同研究もしくは全国の企業に石炭灰を活用した商品の開発を行う。例えば、特殊なボンドで固め、石膏ボードのような内壁材等、地元会社を立ち上げ、雇用促進を図る。
- ・毎年 1 回、浜田市のイベントを行う。例えば、旧那賀郡縦断「ウルトラオリエンテーリング」。2、3 日かけて行い、スタート地点の前日宿泊、昼の休憩地点での食事、中間地点での宿泊等、全国規模の大会とし多くの参加者やその家族、付き人等が地元に入ってくる。また、各地域の方が活気付くと思われる。

【都市基盤】

- ・駅前を中心とし商店街を含む商業地域の開発
- ・古いものの見直し、たとえば身近にある神社、仏閣にまつわることを知り、石見地方

のパワースポットとして発信する。

- ・浜田市東最端に年間を通して人が訪れる大型観光地アクアスがあるが、西端にも大型観光地を設け、観光客の流れをつくる。

【建設・安全部門】

- ・快適な生活をもたらす下水道の整備促進。中心市街地の下水道整備の遅れは、観光振興にも影響する。清潔な公衆トイレの整備が急がれる。

【市民活動・定住】「男女共同参画社会の形成」の項目

- ・住みやすい環境づくり
- ・U・I ターン者の掘り起こし（移住しやすい環境づくり）
- ・女性の管理職登用や採用率を目標・数値化すること。
- ・15 年度から実施の「ひとり親U I ターン支援事業」の拡充
- ・「人口減」を「借りてきた人」で補う手法は、本来取り組むべき課題を見えなくする。地域格差は特性でもあり、肯定すべきである。
- ・人口減少、少子化は対策をとっても結果はすぐにでない。高齢化を逆手にとって、昔頑張ったけど、これからも頑張ると思えるような施策。汗を流したことには対価をもって補う。（ボランティアでと言うのは少しきれいごとの気がする）
- ・産業に特化した施策だけでなく、次世代につなぐ施策をしないと労働人口が減少して高齢化率の高いまちとなり、人口が益々減少する。
（若者が定住するために産業振興が必要とされることもわかるが、それだけでは定住は進まない。もっと若い人の意見を取り入れるべき。また、高齢者だって税や負担金が他の市町村より高額となれば住む所を変える人が多くなる。）
- ・同居を好まない若者世帯が多い中、賃貸住宅の確保
（個性を好む傾向にあるので新築であることは必要ないと思う）
- ・「交流」も「地域内交流」を優先し、必要な工夫を加える。
- ・若い人が気楽に集える機会を作る施策が必要。
（婚姻届に来られた方にアンケート調査をお願いし、出会いのきっかけを調査する。
また、ハピコを通じて独身者に何があればもっと異性と出会えるかアンケート調査をすれば、多方面から見えてくると思う。）
- ・まちづくりに若い人が参画しやすいシステムを作る必要がある。
（休みを使った子どもたちを集える場所を公民館と保護者、まちづくり推進委員会が複数のイベント等を開催する。）

【その他】

- ・小集団による事業展開を構築して行かないと、浜田市を小さくくりで考え、展開して行くのは、施策が生きないと思う。
- ・人を増やすこと、職場の確保、NPO 法人を生かした事業推進、子育て支援の推進
- ・「役割分担（権限のエンパワーメント）」は特に必要。「他人様のもの」には手が出せない。所有権が絡む環境面（農地・林地・海辺）を守るには「特区」が利用できないか。
- ・まちづくりは人づくり。知恵は困難から生まれる。まちづくりで眠っている施設の活用事業。
- ・この計画の究極の目的は、地域公共の課題を住民と行政が共に担い合う社会を創造していく道筋を示すことにある。行政が実現したい事業を織り込むためのものではない。
- ・これからも継続を期待できる「人・組織・もの」という観点から「安全・安心」という概念は全ての分野に関係するのでは。
- ・向こう 6 年間に予見できる事項を取り入れ、どのように対応するか明確にしてほしい。
- ・スポーツ施設は、地元の方が利用する他、大会で利用する程度で、利用頻度が少ないと思われる。大学や高校の合宿や大会のために宿泊施設を設け、利用頻度の向上、職員の雇用促進につながる。

●ロードマップで触れられていない点について

I 産業・経済

- ①水産業
 - ・市場・物流の効率化（遠隔地からセリ参加など）
 - ・後継者育成事業
- ②農業
 - ・浜田市で一丸となって農業振興する仕組み作り
 - ・都市部への農地の貸し出し・生産代行事業
 - ・休耕田・耕作放棄地の転用
- ③観光
 - ・体感交流型観光素材の拡充（リピート率UP）
 - ・産業を観光資源にする事業（職場見学、仕事体験、インターン、視察）
- ④広島開拓
 - ・浜田のリブランディング
 - ・大口顧客（主に直接消費する法人）の開拓
- ⑤海外市場開拓
 - ・農産物・伝統工芸品・日本酒の輸出
 - ・海外市場調査
- ⑥企業誘致
 - ・IT企業の誘致促進
- ⑦起業支援
 - ・半起業（副業・Wワーク）の支援
- ⑧産業革命
 - ・先端技術の活用研究
3Dプリンター、ビッグデータ、ウェアラブル、ロボット、ドローン・無人機、AI（人工知能）、AR（拡張現実）、クラウドソーシング、IoT (Internet of Things)
 - ・経営の革新支援
 - ・人材育成支援
 - ・異業種コラボレーション事業支援

II 教育・文化

- ①国語教育
 - （特になし）
- ②ふるさと教育
 - ・人に自慢できる地元の素材を伝える事業
 - ・物語性を加えた偉人・名所の広報事業
 - ・地元の職業を紹介する本の刊行
 - ・自分の仕事に誇りを持てるような意識改革
- ③スポーツ振興
 - ・プロチームの創設（バレー・フットサルなど）
 - ・スポーツイベントの促進
- ④教育革命
 - ・ITリテラシーの向上
 - ・社会を生き抜く技を得る場作り
 - ・意欲高く学ぶ市民（子供含む）を育てる事業

III 健康・福祉

- ①子育てしながら働けるより良い環境づくり
 - ・子育てしやすい職場づくり（表彰・認証制度）
 - ・2人目、3人目の子供の補助を圧倒的優位に設定
- ②介護施設の拡充
 - ・ロボットを活用したシルバー人材の登用
- ③高齢者の移動手段の確保

IV 定住

- ・ドローンを活用した配送サービスの研究
- ・転入者・転出者へのアンケート実施・分析
- ・採用・不動産情報の提供（求職情報の共有）
- ・県外の浜田出身者のネットワーク構築
- ・20～30代を特に狙った政策
- ・婚活支援（特に県外）
- ・浜田市での生活イメージが具体的に伝わる広報
- ・窓口一本化 ※情報の一元化

V 環境

- ・ドローンを活用した警備・防災システムの研究

① 背景

浜田市は石見の雄として君臨しておりますが、これは歴史的背景もさることながら、産業振興と教育・文化が融合し地域の成長を支えてきた結果、成しえたものである。このうち産業にスポットを当て考えると、昭和 30 年代から 50 年代に亘り当地の基幹産業は漁業関連産業でありました。一次産業の漁業で水揚げされた魚が缶詰工場や干物工場といった 2 次産業集積群を通過することで付加価値が創造され、全国、海外へ売上を伸ばし、この外貨（資本）が浜田市内に蓄積され、市内の商業など 3 次産業の発展に寄与したものであります。

その後、漁業の衰退で一次、2 次産業は衰退しましたが、過去に蓄積された資本と災害復旧工事などの社会資本の整備により 3 次産業の落ち込みにはタイムラグがありました。ところが浜田道の開通により流通革命が起こり、地場の域内商業は県外大手事業者に飲み込まれ、現在は空き店舗だらけの商店街と浜田駅周辺に宿泊・飲食業が集積し僅かな賑わいを見せる程度になり、唯一外貨を稼ぐ能力がある企業が少し元気で後は人口減少に起因する経済の落ち込みに吞まれているのが現状です。

② 今後の展開

「人口」減少を少しでも緩やかにする施策に産業振興、経済活動の活性化があります。短期的レンジで考えると交流人口を増やす観点から企業誘致や観光産業のてこ入れが必要と考えます。但し長期ビジョンでは当地の基幹となる産業や企業の集積が必要です。併せて外貨を稼ぐ企業を育て、地域重点企業に成長させることも必要となります。

③ 成長の可能性

「浜田市を元気にするロードマップ」とリンクする部分がありますが、浜田市は漁業と農林業の振興、浜田商港の活用がキーワードとなります。

- ・ 漁業…水揚げは県外船の誘致など努力分野のほか、新事業として海外漁業船の誘致と水質の良い日本海での養殖業の取り組みが挙げられます。浜田港周辺には多くの防波堤が作られ波高のセーブが可能になってきました。また地球温暖化により海水温が上昇しておりブリの養殖が可能になっているようです。浜田には水産試験場も水産高校もあることから、養殖業の先進大学の近畿大学と連携し、地元資本を集め「産官学連携」で大規模養殖業に参入することを提案します。この魚が出荷される過程で水産加工場や大型冷凍施設、海外への輸出となれば浜田港の利用といった地元産業サイクルが創造されます。
- ・ 農林業…特に林業については可能性が高いと考えます。地元森林組合や製材業、木工業が中心の事業体となります。木材は国際価格が低下し輸出の競争力が高まりました。現在浜田港からは原木が海外に輸出されておりますが、原材料の輸出は付加価値が与えられず、産業の発展にはなり得ません。そこで地元材を切り出し、製材し、商品にして出荷することで地元付加価値の創造となり地元産業のサイクル化に繋がります。製材で出る産業廃棄物はバイオマス発電の燃料となり、また木材搬出で整備された山林は森林認証の対象となることから排出権取引で収入を得ることも可能とな

ります。

- ・ 浜田商港…真っ先にインフラ整備が必要です。国際港内に保税倉庫や保税冷凍冷蔵庫などの施設が無く、国際港の役割は担えません。ターゲットをアジア地区とする山陽の企業に働きかけることで浜田港は『大化け』する可能性があります。長浜港を浜田港と繋ぐ湾岸線を整備し陸側にバックヤードや倉庫群を整備すれば天然の良港である浜田商港は飛躍的に発展するものと考えます。更に荷受業者として上組などのメジャーを誘致すれば自然に荷は集まります。浜田には会津屋八右衛門のDNAが引き継がれています。浜田市の成長戦略に是非取り入れて頂き、国や県の資金を得て港湾整備を行うことが急務と考えます。

7 その他 【計画書のデザイン、計画書の活用方法】

① 計画書のデザインについて

- ・部門別計画（6部門）に係る写真を掲示した内容が望ましい。
- ・デザインはコンサルに任せるが、若年層が魅力を感じるデザインを期待する。
- ・景観や地域行事などの写真、事業なども写真等で理解できるものは大いに掲載していただきたい。
- ・文字やデータばかりでなく誰が見てもわかりやすいデザインや構成。
- ・デザインについては市民公募
- ・常に持ち歩ける表紙、冊子、書き込めるスペースも必要だと感じる。
- ・写真は振興計画に必要ないと思う。ロードマップ、PDCA等民間で活用されている方法が良い方向に向かうのではないか。
- ・中学生も読んで分かる冊子
- ・イラスト、一コマ漫画等を入れて手軽に計画書を見ることができ、内容に興味をそそめるものが良い。
- ・未来の浜田市民の姿を明記したデザインが良い。

② 計画書の活用方法について

- ・活用シーンの設定から検討（※そもそも計画を活用する場面はどのようなシーン？）
- ・浜田市に住んでいることが誇りに思える、いつも開いてみたくなる、浜田市のバイブルのようなものになるといいなと思う。
- ・概要版は全世帯配布とし、本計画書は従来と同様の活用方法で良いのでは。
- ・ダイジェスト版を作成し、市民周知を図ることが必要と思う。
- ・ダイジェスト版は市民が読みやすいものにしていただきたい。
- ・予算にも配慮する必要がある、無駄な配布はできないと思うが、ダイジェスト版は、可能な限り市民の会合の場に活用できるようにしていただきたい。
- ・WEBで県外からも意見収集できる仕組みを構築
- ・それぞれの立場で「整合性」を確認できる「手引書」として利用できるよう、文章は分かりやすく簡単にして写真や絵コンテを多く使う。
- ・まちづくり委員会、公民館活動、NPO、農協、行政、教育現場、すべての会合でこの計画に基づいて議論をしてみてもどうか。
- ・「利用しやすく」「書き込みのできる」簡易版も必要。
- ・何よりも、浜田市民として「参加、体感し自分なりに編集して発信する喜びを感じる」ことのできる地域社会の実現」に向かえる手引書にしてほしい。
- ・総合振興計画を各地区のまちづくり計画の上位計画とする。
(計画は誰のために立てるのかと言えば、市民のために、市民は自分たちのために意見を述べ、決まった計画のサービスを受けたり役割を果たしたりする必要がある。そのためには、行政の都合の良い意見のみ吸い上げるのではなく、意見は分析して活用すべきである。これまでの計画は、市民の意見はほとんど取入れない、意見に対しては「できない、まだ周辺の自治体の動向が見えない」等、必要視しないで聞いただけが多かった。これでは市民の協力は得られない。
- ・各まちづくり委員会、自治会など